

## 【コラム】「対話」を進めるための…

### 定住促進プロジェクト流アイデア集

定住促進プロジェクトは、毎月1回の定例会議を中心に、各メンバーがそれまで収集した情報やデータ、施策案などを共有化し、「対話」を行いながら、議論の集約を図っています。全員集合できるような機会は少なく、どのように「対話」の質・量を高めていくか、アイデアを出し合いながら活動しています。

今回は、そんなアイデアのいくつかをご紹介します。

#### 会議の座席は「くじびき」で決定

毎回の会議の座席は、出席者で「くじびき」（主には「あみだくじ」）で決定します。これは、「対話」の質を高めるための取組です。「対話」を促進するためには、まず、メンバー間の人間関係を良好に保ち、その「人となり」を理解する必要があります。そのために、可能な限り毎回違うメンバーと隣り合い、プロジェクトの議題だけでなく、雑談も含めて、多くの人と話し、相互に理解しえるような状況を意図的に作っています。

また、メンバー間の人間関係が構築できれば、それぞれのメンバーの発言や行動の特質や傾向などを把握・理解しやすくなり、スムーズな会議運営ができるのではないかと考えています。そのようなことを意図して、この取組を行っています。

#### Google アカウント、LINE、Sli.do など IT ツールの活用

予定している時間内で、かつ、様々な職場からプロジェクトのメンバーは集まっているため、情報共有の場の設定や機会の創出は、なかなか難しいのが現状です。そのような状況を少しでも解決できるよう、様々な IT ツールを活用して、活動しています。

例えば、今年度のまち歩きに関しては、Google マップを使い、訪問する場所やルートを共有化し、そのマップを見ながら、実際に歩きました。また、気になる情報や先進事例を見つけたときは、グループ LINE に投稿して、メンバー間で共有し、意見を交換するなど、IT を活用した取組を行っています。

加えて、成果報告会においては、聴講されている職員からできるだけ多くの意見をもらいたいということで、質疑応答に関して、オンラインのディスカッションツールである Sli.do（スライドウー）を使って、手挙げ方式だけでなく、手元のスマートフォンなどからオンラインで意見を出すことができるようなものを試行しました。

#### 積極的に活動している「公務員」の情報をシェア

国や他自治体においては、地域振興やまちづくり、人事や財政制度など幅広いジャンルについて、自身の業務以外の場面でも活躍する公務員が多くいます。このような公務員の情報をインターネットや書籍、実際に行われている勉強会などでメンバー個人が得た情報を全員で共有化し、それらを参考にしながら、身近なことや簡単にできることなどは、自分自身でも積極的に活用して、行動をするようにしています。

特に、「定住促進」のような市全体・社会全体にかかわるような課題については、自分の職場だけ得られる情報だけでは、どうしても情報量が不足します。それを補うため、積極的に外へ出て、情報を取得してくる必要があると考えています。